



子育てチャンネル

こじりばの大切さ(言葉は凶器になりうる)

9年2月18日の道新によれば、千歳市内の中学一年生の女子生徒が昨年6月、書き置きを残して自宅マンションから飛び降りて意識不明の重体となり、両親がいじめがあったと訴えている問題で、千歳市教委と女子生徒が通っていた中学校は、2月17日記者会見した。小林義知教育長は「いじめがあったとは判断できない」との考えをあらためて示した。教育長は「うざい」という言葉は(生徒が)苦痛に思えばいじめと言える」としながらも「『うざい』『き』も『』は学校で日常的に使われている言葉。その一言をもつて、いじめがあったとは判断できない」と述べたとありました。

私はこの記事を見ながら「ちよつと待って」と考えざるを得ませんでした。もちろん今の世の中言葉が乱れ、使

い方もずいぶんと間違っている、乱暴な語句も氾濫(はんらん)していることは万人の認めるところでしょう。

しかしながら、右記の教育長の「うざい」「きもい」の言葉は日常的に使われているのでいじめとは言いがたい、という発言は、両者が納得づくであれば別として、聞く側の受け取り方がそれをいじめや恐怖と感したとすれば、その言葉は立派な暴力であり、凶器といえるのではないかと思います。

もちろん言葉はテレビや漫画から情報としていくらでも耳に入ってくるし、耳にすれば使ってみたくもなります。かといって、やみくもに使って良いものでしょうか。そこにはおのずと取捨選択、良い悪いの判断が必要ではないかと思つのです。

ある時、デパートでこんな

場面にぶつかったことがあります。

顔もスタイルも抜群の女性が男の子を連れてエスカレーターから降りて5、6歩のところまで「てめえ、どこへ行くつもりだ。もさくさしてねえでさっさとついて来い!! この馬鹿たれが!!」と大声出しているのです。

またある時道路を歩いていて2年生くらいの男の子が、3人学校帰りでしょうか、半分ぶさけながら「と、てめえなんか死んじゃえ」「…このやろつ、貴様ぶつ殺してやる」と言い合いをしています。くんだんの女性はムシの居場所が悪かったのでしょうか、男の子たちは漫画のまねをしただけなのでしょうが、聞く側としてはびっくりにしています。

特にネットの書き込みやメールであれば、直接言葉をか

けずとも済むので、ますます過激な言葉使いとなり、暴力化、凶暴化していくと思えます。私どものような古い人間は、このような言葉を投げかけられて果たしてニコニコ笑って聞き流せるでしょうか。

言葉の持つ力、人々に与える影響力については、いまさら申し述べることもないと思いますが、今一度言葉について考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

穏やかで親しみのある言葉、人を納得させることの出来るやさしい言葉、頑張れる力を与えてくれるほめ言葉など、われわれにはまだ人々をやわらかく包み込む言葉をたくさん持っているはずですから…。

三原 真琴